

マーケットの動き（2022年7月25日～7月29日）

先週の為替市場は、米ドルは対円で下落（円高）しました。

FOMC（米国連邦公開市場委員会）を26～27日に控え、米ドル円相場は週の半ばにかけて上昇しました。その後は、28日に公表された4～6月期の米国GDP（国内総生産）が予想外のマイナス成長となったことを受け、市場ではFRB（米国連邦準備制度理事会）の利上げペースが鈍化するとの見方が強まり、急速に円高ドル安が進みました。

ユーロは、対円・対米ドルともに下落しました。

投資環境見通し（2022年7月）

円に対して、米ドル、ユーロともにレンジ内での動き

米国、ユーロ圏ともに金融政策は利上げ方向にあります。金融市場においては織り込みが進んでおり、当面は今後の景気悪化も意識されやすい状況とみられます。一方、日銀は緩和的な金融政策を継続する姿勢を示し、国内長期金利はレンジ内での動きにとどまるとみられることもあり、日米金利差のさらなる拡大は限定的とみています。米ドル、ユーロはともに景気動向を注視しつつ、当面は円に対してレンジ内での動きになるとみています。

	7月29日	変動幅（円）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
米ドル/円	133.65	▲2.39	▲3.19	18.47	24.03
ユーロ/円	136.28	▲2.90	▲7.11	7.67	6.00

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

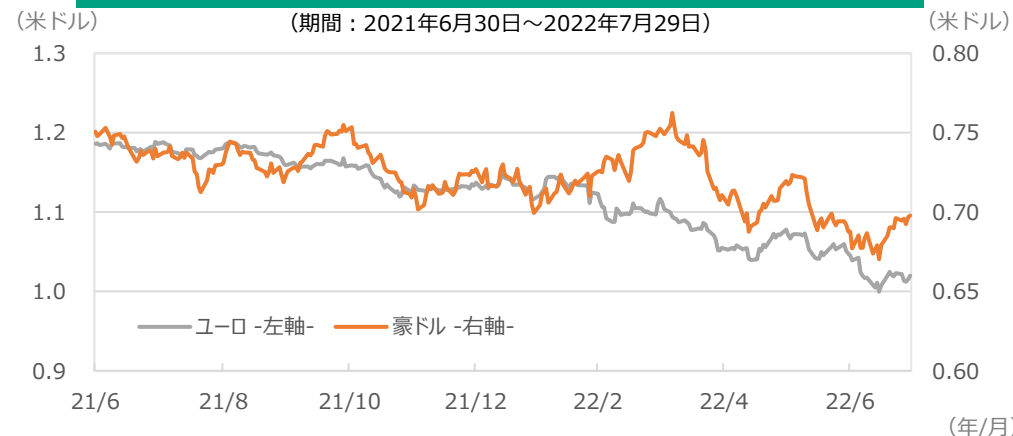
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202207_outlook.pdf

為替レートの推移（対日本円）



為替レートの推移（対米ドル）



※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客様の投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客様自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>